

論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）乙第 1788 号	氏名	長井 一浩
論文審査担当者		主査教授	松山 俊文
		副査教授	近藤 宇史
		副査教授	永山 雄二
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1. 研究目的の評価</p> <p>成人 T 細胞性白血病 (ATL) の発症には HTLV-I の <i>env-pX</i> にコードされる Tax が関与すると考えられてきた。しかし樹立した HTLV-I 感染細胞でみられる Tax の発現は患者から分離した白血化した細胞 (ATL 細胞) では検出されないために生体内では Tax 非依存性の増殖機構が存在していると予想されている。本研究は生体内と同じように Tax 非依存性の増殖を行う培養細胞系の確立を目指したものであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>本研究では支持細胞としてヒト造血細胞の長期の継代培養で用いられているマウス骨髄間質細胞株 MS-5 を用いた。解析方法として形態学的観察に加え、免疫組織化学、サザンブロット法、ウェスタンブロット法、in situ hybridization 法、更には網羅的な mRNA の発現解析のためにオリゴヌクレオチド・マイクロアレイ法を用いた。以上は目的に十分に即した研究手法と評価できる。</p> <p>3. 解析・考察の評価</p> <p>支持細胞として MS-5 を用いた結果、患者から分離した ATL 細胞は支持細胞に接着して増殖する cobblestone area (CA) を形成するとともに、臨床検体と同様に Tax の発現が低下し、Tax の anti-sense の向きに転写される HBZ 遺伝子の発現が確認された。本培養系は、今後 ATL 細胞の特に生体内の増殖に則した生物学的特性を研究するのに有用であり今後の進展が大いに期待される成果である。審査員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			